

平成25年 8月29日

清水町議会議長 加 来 良 明 様

清水町議会総務文教常任委員会
委員長 原 紀 夫

所 管 事 務 調 査 に つ い て

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 清水高等学校振興会について

2. 調査期日 平成25年7月29日

3. 調査の結果

清水高等学校振興会の概要について、学校教育課職員から説明を受けた後、同校校長から入学者選抜実施状況及び卒業生の進学・就職状況、同振興会会長からこれまでの歩みについての説明を受け、引き続き、同校の間口維持に向けた取り組みについて調査を行った。

【清水高等学校振興会の概要】

同校が平成9年4月に普通科・酪農科から総合学科へ学科転換されるのに伴い、将来とも魅力ある学校であるために各種支援活動を

行う目的で、町内各学校のPTA、同校同窓会、町内各中・高等学校校長等の構成で平成8年6月に設立された。

事業内容は、広報活動として学校通信「彩雲」の定期発行や学校案内パンフレット及びポスターの作成、募集活動として各中学校訪問や学校説明会及び公開授業の開催、各種連携事業としてリカレント講座、清水中学校への出前授業、清水幼稚園及び清水小学校との交流授業などが実施されている。

平成24年度決算では、町が172万円を補助金として支出しており、約98万円を進路支援費として、進学・就職に有利となる資格取得のための検定料等の一部補助に活用し、288名の生徒が各種検定にチャレンジしている。更には、学校案内パンフレットや学校通信等の印刷費用として約56万円が活用されている。

【入学者選抜実施状況及び卒業生の進学・就職状況】

平成25年度の入学者選抜実施状況は、160名の定員に対して170名の出願があったが、学力検査当日欠席が26名、入学辞退が19名発生し、結果的に入学者は125名で、かろうじて4間口が維持されており、町内の中学校卒業生が同校へ入学した割合は、約52%で増加してきている。

平成24年度卒業生の進学・就職状況は、4年制大学12名、短期大学7名を含む65名が進学、新得町役場を含む59名が就職されており、進学希望者の進学決定率は98.5%、就職希望者の就職決定率は100%になっている。

【これまでの歩み】

総合学科への転換については、長く続いた同校の定員割れの解決のため、当時の教育長、校長、同窓会役員が学科転換にかかる話し合いを持ち、北海道で初めての4間口の総合学科として生まれ変わった。当時は総合学科に対する認識が低く、校長をはじめとする教員や同振興会役員が十勝管内の中学校を説明に駆け巡り、160人の定員を確保してスタートしたが、近年は少子化による入学生の減少により、定員割れを起こす回数が多くなり、間口減という現実が大

きな問題になろうとしており、同振興会役員だけでは解決できないため、色々な方と危機意識を共有しながら、4間口確保に取り組んでいきたいとのことであった。

【間口維持に向けた取り組み】

4間口の維持に向けては、各委員から国公立大学への進学や町役場へ就職している実績をPRする、進学に特化した授業を実施する、全国大会準優勝の実績を持つアイスホッケーをはじめとしたスポーツ活動に力を入れる、在学している生徒から中学生の後輩へ声をかける、社会人として活躍している卒業生を紹介し学校のPRにつなげるなどの意見が出された。

同振興会としては、町からの補助金が本年度200万円に増額されているが、更なる増額を望んでいるわけではなく、17年が経過しても総合学科の理解が十分ではない面もあるため、各中学校への訪問を継続するとともに、総合学科になった時の原点に戻り、総合学科の利点を町内各学校のPTAや十勝管内の教育関係者等に説明できる機会をつくることを考えており、また、進学への対応についても、習熟度に応じた授業の実施等、帯広市内校とそん色ない教育課程が組み込まれていることをPRしていきたいと説明があった。

同校は4間口の総合学科として、5系列、約90の選択科目があって様々な進路に対応できるのが特徴であり、間口が減になれば科目数が維持できなくなってしまうため、4間口の維持は非常に大きな問題であり、現場として努力されていることも強く感じられた。

十勝管内の他町でも高等学校の間口維持に向けた取り組みが進められ、海外研修を実施している町もあり、同校への進学者を増加させるには、総合学科として特徴ある魅力を向上させて広く周知し、町内中学生の進学率を高めるために中高の連携を更に深める等の対策が不可欠であり、行政としても学校等と課題を共有しながら、町を挙げての積極的な取り組みが進められることを期待するものである。